

1988年6月18日第三種郵便物認可(通巻80号)

[月刊]

キャッチ ピース

1

通巻第80号

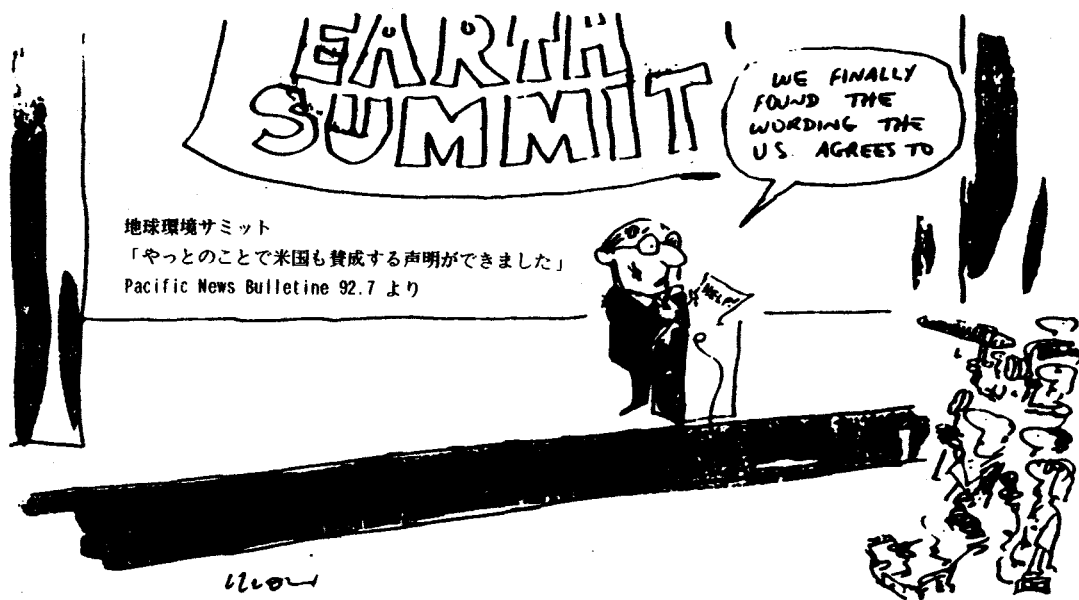
1992.8

定価●100円

月刊トマ喰い虫改題

連絡事務所●〒223 横浜市港北区箕輪町3-3-1
TEL 045(563)5101
FAX 045(563)9907
郵便振替●東京6-136148 口座名「キャッチピース」

自衛隊の海外派兵を食い止め、大幅軍縮を！
米軍基地を撤去しよう！
反核運動を継続し、核廃絶を！
憲法9条を世界に！
市民による平和政策を提起しよう！
草の根の国際共同作業をすすめよう！



地球環境サミット
「やっとのことで米国も賛成する声明ができました」
Pacific News Bulletin 92.7 より

STOP!

自衛隊の海外派兵 ペローウッド、オブライエンの母港 プルトニウム輸送

核にとどめを刺すのは誰か/米軍資料が明かす基地強化(相模原)

★維持会員(月間)

個人 1口 1000円
団体 1口 2000円

★参加会員(月間)

個人 1口 500円
団体 1口 1000円

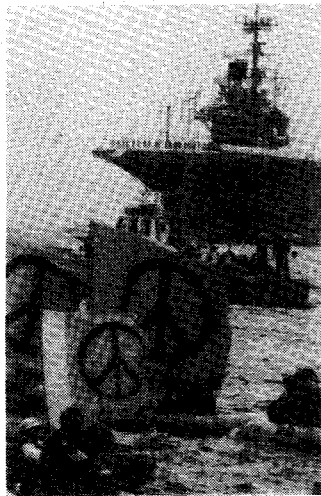
★通信会員

年間
3000円

脱軍備ネットワーク

キャッチピース

<会費は本紙購読料をふくみます>



核にとどめを刺すのは誰か

核軍縮はどこまで行くのか？
誰も予測できない。今はまちがいになく
核廃絶の好機なのだ。
梅林宏道

核兵器に関する状況は大きく変化している。今日の最も大きな特徴は、核兵器を維持する側にも、それを正当化する理論が存在しないことである。かつてはそれがあった。私たちが納得できないものであるにしろ、時代時代の核戦略理論によって保持すべき核弾頭数の理論的根拠が与えられた。米ソが冷戦を終えた今、それに代わる理論の空白が続いている。

米政府や国防省は、冷戦後も核抑止論を米戦略の柱にすることを繰り返して言明している。にもかかわらず、抑止論を具

体化する核戦略理論を作れないでいるのである。したがって、核軍縮がどこまで行くか誰も予測できない。このような状態が核廃絶の好機であることにまちがいない。八月の初めに、来日した核問題の第一人者であるウィリアム・アーキン氏（グリーンピース）とトマ喰い虫社で時間を掛けて話をする事ができた。理論の空白について、「核廃絶つまりゼロ・オプションこそ正解であるという理論を提出する好機ではないか」と私が促したのに対して、「国防省内にゼロ・オプション

核戦略理論の空白

核廃絶への確信に満ちた運動のためには、核軍縮の現状についての正確な認識が不可欠である。現状を整理してみよう。核軍縮には現在四つの流れがある。

海外派兵、オブライエン・ベローウッドの母港化そしてプルトニウム…

6月のある日、広島平和公園で



●カンボジアPKOに派遣される自衛隊部隊の一番手は中部方面隊の第四施設団にきまりました。すでに人員のセレクションも終わりました。間もなく兵庫県青野ヶ原の演習場で演習が始まる、といわれています。第四施設団の本部は京都府宇治市にある大久保基地。ここに置かれた第七施設群、愛知県豊川市の第六施設群、香川県善通寺の第八施設群が主力になるでしょう。これに加えて器材や車両を運ぶのが呉あるいは横須賀の海上自衛隊輸送艦。人

員は愛知県小牧基地の輸送機。これが派遣部隊の陣容です。●参議院選挙。沖縄、広島そして惜しくも当選はのがしたが東京で、「反PKO」候補は熱い戦いをくりひろげました。全体としては「自民圧勝」に終わった選挙結果を待っていましたがとばかりに「海外派兵」の歯車は回転速度を早めています。でも、平和運動の歯車だって、間違いなくまわっています。東京に続いて呉、京都、愛知、横須賀などであいつ

(五ページ上段へ)

9.27^{1:00} 人間の鎖

宇治大久保基地
P K O 派兵を阻む

呼びかけ●自衛隊の海外派兵に反対する平和行動実行委員会
(反戦ドタバタ会議、京都トマ連なども参加)
連絡先●0774(43)8721 洛南労組連
交通機関●京都駅で近鉄奈良線に乗り換え、急行で25分ほどで宇治大久保駅着。駅前が基地です。
☆東京から日帰りも可能です。みんなで行こう!

八月九日は長崎にプルトニウム爆弾が落とされた日です。あれから四七年たった今年の秋より、その同じプルトニウムが「平和利用」という衣をまとって、ヨーロッパから大量に返ってくる予定です。

これらは高速増殖炉もんじゅなどで燃料として使うためですが、日本の原子力政策はまさにこのプルトニウム利用を目指したものです。ウランを原発で燃やしてできる使用済み燃料を、再処理してプルトニウムを取り出し、これを高速増殖炉で燃やせば、燃やした以上のプルトニウムが作られ、無限大にエネルギーが取り出せることとなります。これが実現すれば国産エネルギーが得られ、エネルギーの自給自足が達成されることになるのです。

しかし実際問題としてプルトニウムを燃料として利用する国は、今や世界中どこにもなくなっています。アメリカ、イギリス、ドイツ、そしてフランスまでが、プルトニウム利用を放棄したのです。その大きな理由は、安全性が確保されないということと経済的に成り立たないこと、そして何よりもプルトニウムが核兵器を作る材料であり、核拡散の脅威があるからです。

利用道のないプルトニウムを、日本は二〇一〇年までにヨーロッパから五〇トン、六ヶ



原子力資料情報室 鮎川ゆりか

危険な海上輸送計画

横浜港に停泊中のプルトニウム輸送船「あかつき」(上)と巡視船「しきしま」(プルトニウムアクション提供)

プルトニウムを抱えた 平和国家なんて、 ありえない。

所村に計画されている再処理工場から八八トンを獲得する予定です。そのため世界的には日本は核武装をするのではないかと懐疑の目でみられています。

プルトニウムは七、八キロもあれば核兵器が作れます。そのためこれがテロリストなどの手に渡らないよう、プルトニウムの輸送には細心の注意が払われ、軍隊のような護衛が

つき、秘密裡に行われることになっています。核ジャックからプルトニウムを守るためには、輸送時間を最少限にすることが必要で、そのためプルトニウム輸送が決まった当初は、空輸されることが条件になっていました。ところが輸送される航路の下に当たるカナダ、アラスカ州などから抗議の声が上がり、結局飛行機事故にも耐えうる輸送容器が開発

されない限り、空輸は許されないことになりました。

その代わりとして出てきたのが海上輸送で、この場合には護衛が重要なポイントとなります。この件が国会で議論されていた一九八九年当時は、自衛隊の海外派遣は憲法違反に当たるとされ、とても考えられることではありませんでした。当時の海部内閣は海上保安庁の船を護衛につけることにし、新たに二〇〇億円の予算をつけて、軍備も備えた護衛船「しきしま」を建造したのでした。

ところがその後九〇年夏に湾岸戦争が起きると、「国際協力」という名のもとに自衛隊の派遣が堂々と議論されるようになり、ついに九一年四月掃海艇の派遣が実現し、そして今年になってPKO法案が国会を通過されてしまったのです。

日本が獲得しようとしているプルトニウムは、アメリカで濃縮されたウランから取り出されたものであるため、アメリカ政府は日本のプルトニウム輸送計画を最終的に認可する責任を負っています。そのアメリカ議会の中には、「しきしま」だけの護衛では不安である

るとの根強い反対論があります。その意味でも、いつでも自衛隊を派遣できるようにしておくことが、重要なことで、PKO法案を強引に通した背景には、プルトニウム輸送の護衛に自衛隊を派遣できるようにするのが、究極の目的ではないかと思えてしまうのです。

この四月科学技術庁は、核物質の輸送に関する情報を公開しないよう四二事業者に通達、関連二〇自治体に協力を要請しました。これはもんじゅのためのプルトニウム燃料輸送や、ヨーロッパからのプルトニウム返還輸送などに対し、核物質防護を強化するために行われたものですが、これは国民が自分の身を守るための最低限の、「知る権利」を無視したもので、民主主義を根本から覆すものです。いよいよ国が情報を一元的に管理する「プルトニウム社会」が始まってしまったことを肌感じさせられます。

これに対し沿線各国は重大懸念を表明しています。太平洋の島々は安全性の面から心配しており、ハワイ州知事は声明を発表しましたし、北マリアナ総督も補償の問題が最大の懸念だと発言しています。南太平洋の国一五カ国の首脳が集まる南太平洋フォーラムでも、プルトニウム輸送への懸念が共同宣言に盛り込まれました。南アフリカ共和国も二〇〇海里経済水域を通さないと宣言していますが、アジア・アフリカ諸国はおもに日本の核武装を懸念しています。こうした世界各国の懸念を無視してでもプルトニウム輸送を強行しようとしている日本は、そのように思われても当然です。

この輸送情報の秘密化はヨーロッパからのプルトニウム返還に関しても同様で、科学技術庁は輸送ルートも輸送日時も秘密にし、輸送沿線国に知らせていないし、知らせるつもりはない、と断言しています。緊急事態は起

る原子力発電の究極の目的がプルトニウムを取り出し利用することにあることによって、原発と核兵器は実は表裏一体であり、原子力の「平和利用」など有り得ないことが、今初めて見えてきたと言えるでしょう。プルトニウムを利用する社会には軍隊やPKO法案、国家秘密法、警察、などがつきもので、平和国家とは決してなりえないはずだ。

この輸送情報の秘密化はヨーロッパからのプルトニウム返還に関しても同様で、科学技術庁は輸送ルートも輸送日時も秘密にし、輸送沿線国に知らせていないし、知らせるつもりはない、と断言しています。緊急事態は起

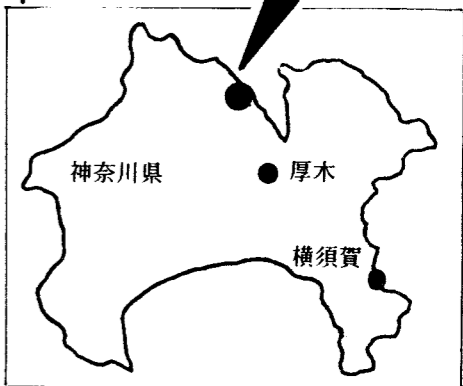
アジア・アフリカの国々の心配は日本の核武装。 輸送ルートすら明かさない日本のやり方ではぞう 思われても仕方がない。

「冷蔵倉庫」は

実は

武器庫だった

米軍相模補給廠



金子富貴男

相模原市議・社会党

記者発表は一日とし、梅林宏道さんと私が同席、内容・経過報告は梅林さんが、私は補給廠の現状や、プランと思いやり予算の関係などについて報告した。会見には分析結果を白地図に書き込んだものも用意、記者団に説得力あるものとなった。

会見内容のポイントは、①プランが出来た八八年以降の四年間で、補給廠内に一般倉庫、冷蔵倉庫などが計画どうり、日本政府の思いやり予算ですでに建設されている。②防衛施設庁が医薬品などの冷蔵倉庫と誤っていたものは、実際は武器庫だった。③米軍により今後屋内射撃場の建設が計画されている事。④移動医療施設の計画があり、市が強く返還を求めている野積場になっている。……など。会見には、主要五紙とNHK・共同通信などが参加、多くの質問が出され、内容の重大性からただちに市長の会見も求められ、市長は「野積場の利用計画など非常に遺

米軍「マスタープラン」で暴かれた「思いやり予算」による基地強化の実態。平和資料共同組合準備会と議会活動ががっちり噛み合った。

一九七二年八月五日、横浜ノースドック入口の村雨橋上で、米軍相模総合補給廠から搬出されたM48戦車が、社会党員などの手によって通行を阻止され、三日後戦車は引き返した。ベトナム戦車斗争の始まりだった。

あれから二〇年、相模補給廠は（以下「補給廠」とする）、当時のような活況はないが、倉庫を中心にあらゆる軍需物資の保管・補給基地として、静かにその機能を

維持している。湾岸戦争でも米軍の後方支援基地として、重要な役割を担っており、その分、市民の不安もかきたてられた。

戦車斗争以来、大きな反基地運動の市民的盛り上がりもなく、当時の斗いを知らない住民が多数になる中で、基地の返還運動も新たな対応を求められている。私は、昨年四月の市議員選挙に立候補、基地返還と平和運動の推進を市政の大きな課題として訴え当選した。以後、毎議会の一般

櫛に思う。民間人が入手できるマスタープランが、どうして自治体には明らかにされないのか。国に対してプランの入手を強く求めて

「監視団」の沢田政司代表も会見を求められ、写真を見せての現況報告を行ない、プランどうり基地機能が強化されていることを明らかにした。

一九九日の会見内容は、各紙とも地方版のトップ扱いで大きく紙面を割いた。

これを受けて議会では私も所属する基地対策特別委員会が急遽週明けの二二日に開催され、市側から経過とプラン入手の努力が報告された。各議員からは活発な質問が出されたが市側は「市としては、いまだマスタープランを公式には入手できておらず、内容等は報告できない」との見解であり、私の方から、入手の経過と分析を報告、

も試みるべきと強く主張した。二三日午後の一般質問で、私は、マスタープランを分析した結果をもとに今後の基地返還との関わりを中心に市の取り組みを追求した。市長や担当の渉外部長とのやり取りは、プランを入手していない市側と、すでに分析した私との平行線になることが多かったが、しばしば答弁に窮することも多く、市長は異例の二日答弁をしたり、当事者としてはやりがいのある質問であった。また、この質問の中で、基地返還促進市民協議会を開いて対応を協議するとの答弁も引き出した。

翌日の新聞各紙で一般質問の内容が取り上げられ、補給廠の問題が、再び市民へ広く知られるようになった。二五日まで行われた議会の一般質問では他の議員からも取り上げられ一層注目された補給廠のマスタープランであった。

市ではその後七月八日に基地返還促進市民協議会の総会と理事会

が開かれ、前日米軍から入手したマスタープランが関係者に始めて配布された。

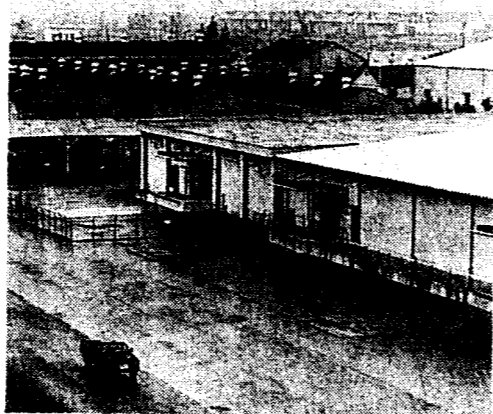
この日の総会や理事会は最近になく活発な質疑が行なわれ、市としての補給廠返還に向けた積極的な取り組みが求められた。そして年中行事的な市民協の総会や理事会でなく、実りのある内容が求められる、国や米軍への申し入れも協力に行うべきとなった。

その後、七月一三日横浜防衛施設庁へ市長も参加しての要請行動が行なわれ、現在、米軍への申し入れの日程調整中である。

今回のマスタープランでは平和資料協同組合の取り組み、監視団の粘り強い活動、そして私の議会活動がうまく連動して大きな流れを作ることが出来ました。今後は、提起された課題を一つ一つ検証し、議会活動、地域活動一体となった活動を進めて行きたい。

追伸、市議会の議事録が八月末に出来上がります。必要な方はご連絡下さい。

市が米軍資料を直接入手した、 というのも画期的なできごと だった。



92夏 今、ヒロシマが問われる

出すな自衛隊！ 入れるなプルトニウム

47回目の8.6のヒロシマは珍しく曇り空となり、時代の曲がり角を象徴して暗く沈んでいた。

この秋、PKO法にもとづく自衛隊の本格的な海外派遣が始まろうとしている。同じ時、核物質であるプルトニウムのフランスからの帰還が始まり、被爆国が核物質を持つとしている。

6日の朝、平和記念公園でもらった広島市長の平和宣言は上記の二点について一言も触れていない。抽象的に不戦の誓いが語られているだけの「平和宣言」とは何なのであろうか。

5日から6日昼まで県民文化センターで開かれた「92反戦・反核広島集会」には約250名が参加した。例年よりやや少なめだったが、各地、各運動体からの報告はPKO法の廃案をめざして秋の自衛隊のカンボジア派遣を止めようという声であふれていた。

最初の派遣が予想される中部方面隊の第4施設団に関わって宇治、関西などからは全国的な連携を強めることがくりかえし提起された。特にその中心である京都の大久保基地を人間の鎖で

包囲する取り組みや海上自衛隊の輸送船団が出ていく可能性がある大阪港や阪神基地隊での海上からの行動などのイメージが出された。

PKO法の本当のねらいが日米が海外に持つ膨大な権益を守ることにあり、南北の差別的な構造を維持するために躍起になっている状況をふまえ、私たちの暮らしとアジア・第三世界の関係を問うことが基本的な作業として大切であることも話題となった。

中曽根の時代に言われていた戦後の総決算がいよいよ現実のものとなり、ポスト冷戦という状況に即して日本は重大な転機をへつつある。それを象徴する自衛隊の海外派遣とプルトニウムの帰還に抵抗する運動を各地で取り組むことを約して集会は終わった

あとは呉、広島の基地めぐりツアー。自分が、それも今がよければ、それでよしとする民衆の意識の延長上に私たちの将来を見通すことはできない。利己主義と刹那主義が共存した状況が、PKO法を許し、米軍の強化を許している。壁は私たちの意識の中にある。その壁に小さくとも確かな穴をあけることが私たちの仕事ではないかと思いつながら呉の基地めぐりツアーの案内に汗を流した。

湯浅一郎

●ピースリンク広島・呉・岩国

読者の声

●三百代言と言うほかありませんが、さすが小沢委員会の国際貢献論を粉砕できるわかり易い論理のくみ立てが不十分だったのが、国民の多くが違憲の思いを抱く人が過半を占めながら、棄権と情性で自公民に勝利を与えました。

今年こそ私たち全国の数多くの反戦反核平和の運動体のネットワークを作り、大きく力を結集して、恒久平和、脱軍備をめざし、平和憲法（前文、九条）を世界に拡げるため、がんばりましょう。お互いに創意工夫をこらしながら、皆さんのキャッチピースに心から敬意を表します。（加藤隆通／桑名市）

●暑中お見舞い申し上げます。
私は今北海道北端、人口二九〇〇人の町、中頓別にきています。まだ自然のままの山林、川もあり、「埼玉も昔はこうだったんだらうな」と思うととってももったいない。なんであんなにコンクリートでかためたりけずったりしちやうたんだらうって思います。

そちらは暑いのでしょうか。どうぞお元気で。（鈴木かずえ／浦和市）

●冷戦も終わりにイデオロギーの対立も消えたとは言え、資本主義の市場経済が世界で唯一の社会構造であるのかどうか、民族、人権、飢餓、貧困、環境等の困難は後から続々と発生して来るのが人間社会である。とは言え、世界情勢に大きな変化が起きたことは確かである。「トマ喚い虫」もこれに対応することは結構なことである。「キャッチピース」の機関紙名も苦勞した名前らしく誠に妥当ではないかと感じました。自由も人権も、民主主義もすべて勝ち取るものであることは既定の事実であって平和も勿論うばい、もぎとる程のものでなければ価値も実現も出来るもので

はないと思います。（五味久雄／横浜市）

●PKO法と、その背後の思惑には絶対反対です。ただ、個人には、平和維持活動参加が即違憲だとか、ましてや徴兵制復活だとは思えない部分があります。PKOが違憲である前に自衛隊がそもそも「合憲」とはいえないわけだし、徴兵制などにみられる軍事合理性第一主義復活は、あまりに非現実的と思われるからです。（他省庁は無関心に近いみたいです）

むしろ、「ポスト日米安保」の可能性を見出すことができないかと、色々調べてみたいと思っています。（吉植庄一郎／役者／習志野市）

原子力艦 入港情報

(46)

1992年6月16日～8月15日

P級=原子力潜水艦パーミット級

S級=原子力潜水艦ステーション級

L級=原子力潜水艦ロサンゼルス級

- ◆6月16日 14:01原潜インデアナポリス(L級) 横須賀に入港。
- ◆6月19日 10:00原潜シカゴ(L級) 佐世保に入港。
- ◇6月23日 14:05原潜シカゴ(L級) 佐世保を出港。
- ◇7月1日 08:00原潜インデアナポリス(L級) 横須賀を出港。
- ◆7月13日 13:57原潜ウイリアム・H・ベイツ(S級) 横須賀に入港。
- ◆7月15日 07:50原潜トートグ(P級) 佐世保に入港。
- ◇同日 08:12原潜トートグ(P級) 佐世保を出港。
- ◇7月22日 14:23原潜ウイリアム・H・ベイツ(S級) 横須賀を出港。
- ◆8月11日 13:56原潜ウイリアム・H・ベイツ(S級) 横須賀に入港。

●1992年1月1日から8月15日の各地への原子力艦入港回数

横須賀	12回(うち原潜12回)
佐世保	7回(うち原潜7回)
ホワイトビーチ	4回(うち原潜4回)

会計報告

(92. 6. 1~8. 20)

[収入]

○反トマ全国運動からの引継ぎ	50,441
○今月の収入	395,710
会費収入	296,000
内	
維持団体	140,000
維持個人	51,000
参加団体	6,000
参加個人	34,000
通信会員	65,000
カンパ収入	90,000
資料収入*	9,710

[支出]

●今月の支出	393,532
家賃(6, 7, 8月)	120,000
水道光熱費	12,864
電話・FAX費	54,014
郵送費	55,080
文具・備品	3,419
印刷・コピー代	144,765
行動費**	0
郵便振替等手数料	3,390
●次月への繰越	52,619

* 平和資料協同組合(準)の資料収入は別会計とします。
 ** 行動収入、経費は原則としてプログラム毎の独立採算となっているため、これにあてはまらない一部の収支のみが経常会計に計上されます。
 [注] 半専従者の人件費は有志の特別カンパと平和資料協同組合の準備活動の事業収入でまかっています。

●大幅軍縮、米軍基地の撤去...いま、もつとも大切なところでの御活躍、ありがたいと思っております。私もほそぼそながら、地元で、ミニコミ活動のほか八・八「五條空襲の日」のイベントなど続けています。でも、残念ながら、あちこちからの会費、カンパ要請に応じ切れず(夫の年金で生活)脱会します。どうも、すみません。みなさまくれぐれもお体を
 (福本嘉子/奈良県)
 「振替用紙から」
 ●立上がりをして、些少ですがカンパさせ
 (東京/UM)

●社会運動故にこそ時々脱皮することが必要なのでしょね。全国運動ご苦労さまでした。(OK/名古屋)
 ●キャッチピースは音というかゴロがいい、良い名称ですが、たとえば「メイク・ピース」などに比べて受け身の印象ですね。「待っていたって平和は来ない」とチラシにあります。今後ともよろしく。(普通寺市/YM)

編集室から

●「トマ喰い虫」あらため「キャッチピース」の第1号です。何?前のとゼンゼン変わってない?じっくり充電する暇もあらばこそ、はしりながらの試行錯誤でとりあえず発車です。ワープロ入力は事務所専従の仕事をはじめたばかりのSさん。正確にして迅速、たのもししい新しい仲間です。紙面の都合でニュースの抱負、ポリシーなどは次号でお話します。題字、キャラクター募集中。(た)

月刊キャッチピース

(月刊トマ喰い虫改題)

No. 1 (通巻80号)

発行●脱軍備ネットワーク・キャッチピース

編集●キャッチピース編集委員会

事務所●〒223 横浜市港北区箕輪町

3-3-1

☎045(563)5101

FAX 045(563)9907

郵便振替●東京6-136148「キャッチピース」

定価●100円(通信会員年間3000円)